



森の中の高知駅



高知を愛する皆様へ (30年10月号)

平成30年10月1日

足早に秋がやってきましたが、お変わりございませんでしょうか？
今月の活動予定をお知らせいたします。

10月14日(日)

09:00~11:00 南口電停脇花壇「みんなの庭」の手入れをいたします。

15:15~16:00 中央公園前の帯屋町筋でチラシ配りと葛岡さんによるギターライブです。

<11月の共同活動は18日(日)、12月は16日(日)の予定です>

9月のトピックス

- 16日に総勢5人で南口電停脇「みんなの庭」の雑草(カヤが難敵)や、異常高温と多雨で痛んだ夏花を一掃しました。
- 冬・春花への植え替え時が間近です。費用の一部を高知市が助成していただきます。
- ボランティアのUさんが今年も秋ソバの種を蒔いてくれました。年内に白い花が咲くでしょうか？
- 21日高知市の職員多数が北口駐輪場周りの植込みの除草・清掃を行い、仲間のNさんが応援に参りました。カヤが茂ってやっかいな場所です。
- 先の冬、北口ロータリーに皆でヒメシャラ(市に寄贈)を植えましたが、この冬も適当な場所に植樹することを高知市に打診中です。間もなく結果をご報告いたします。-



ヒメシャラ植樹風景(1月13日)

.....(次ページに続く).....

駅前緑化活動はご賛同の方々のご厚志で維持されております。引き続き皆様のお力添え(花苗持ち寄り、勤労奉仕、ご寄付など)をお願い申し上げます。

♥森の中の高知駅♥

幹事連絡先：〒780-0042 高知市洞ヶ島町1-11

中田昌志 携帯電話：090-8849-3651 E-mail：m.nakata@ak.wakwak.com

公文敏雄 携帯電話：090-7016-3743 E-mail：kumont2@yahoo.co.jp

ホームページ：<http://mori-kochi-eki.jimdo.com/>

取引銀行：四国銀行よさこい咲都支店「森の中の高知駅 代表中田昌志」ナカタマサシ 名義 普通 0709695

「緑のまちづくり」を考える

(24) 街を建物で埋め尽くすとなぜ「危うい」のか？
— 私どもが「緑のまちづくり」を目指すワケ —



科学者が
モノカルチャー
に警鐘を鳴らす
(H29年7月刊
青土社)

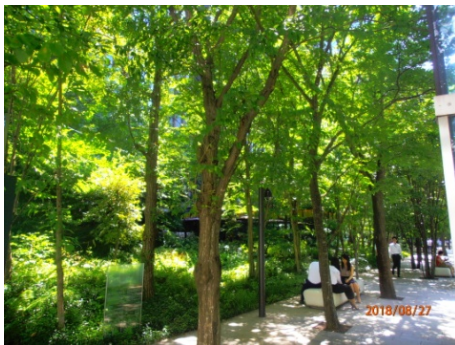
「経済効率ファースト」で、もっぱら同じ作物を育て続ける「単一大量栽培」(モノカルチャー)が土地の疲弊と病虫害大発生を引き金となり、肥料と農薬の大量投入という対応が今度は深刻な環境・人体汚染をもたらしているのは、ご承知のとおりです。発展途上国でも、穀物・コショウ・カカオ・バナナ農園などで同様の問題が発生しており、これはグローバルな現象といえそうです(上掲の書物はその報告)。

ここまでは「作物(植物)」の世界の話ですが、近年、同じ生物である人間の社会も無縁ではないと考える人達が出て来ました。人工的なもので覆われた現代都市が生む、ヒートアイランド現象や、大地から離れた暮らしのストレスなど、様々な「都市病理」は、「経済効率ファースト→均一化」で突き進んできた結末ではないかとの反省からです。

その一つが、「都市というものは建造物で埋められて当然、という一面的な時代ではなくなった。これからは、<多様性のあるまちづくり>、<緑と農のあるまちづくり>を進めよう」という提唱です。(まちづくりの泰斗、福井県立大学学長 進士五十八しんじいそや氏)

椿原町と縁の深い著名な建築家 隈研吾氏は、建築は「場所」づくりだと説きます。「一つの場所を占有し、環境を変えてしまうのが建築の宿命」だからです。そして、「建築を作るということの重さに気付かない無神経さに対して、無性に腹が立つのです」と峻言しています。(「お知らせ」8月号で詳説)

ここで、私たちが住む街をちょっと歩いてみます。日射しが強い先月のある日、新図書館脇を通ると、お散歩タイムでしょうか、10人余りの可愛い保育園児たちと出会いました。木陰も無いコンクリの地面に坐って休んでいます。付き添いの保育士さんが、「連れていく場所があまりなくて・・・」とつぶやいていました。



東京大手町に出来た自然林(9月号より)



灰色の高知市新図書館付近航空写真(9月号より)
どのような「場所」にする? そして「環境評価」は?

東京のビル街に武蔵野を想わせる自然の森が新しく作られる時代です(「お知らせ」9月号)。旧態然と「箱モノづくり」を続けるのではなく、将来に夢が持てるような「まちづくり」で、人々が集い、賑わう、住んで心地よいまち高知を目指したいものです。「緑」はそのキーワードではないかと考えます。

以上